

校 園 名：三重大学教育学部附属特別支援学校

所在地：〒514-0062 三重県津市観音寺町484 電話番号：059（226）5193

記載日：平成28年5月13日 記載者：中瀬 鉄夫 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

自閉症スペクトラムを中心とした知的障害児を対象とする研究校として、43年の歴史を重ねている。

生活訓練施設（平成13年建築）の名称である『ひまわりの家』を学校の象徴とし、ホームページ等も、オレンジ色をイメージカラーとしている。

『そよ風にのって（清掃活動）』『君の未来に幸あれ（卒業式）』『送別のうた（卒業式）』『学校祭のうた』など、本校教職員が創作した楽曲が音楽文化として受け継がれている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

特に追跡調査等を行っていない。

年間5回、卒業生が参加できるイベント（次に紹介）があるので、そのときに近況を聞いたり、同級生の情報を聞いたりしている。

1. バーベキュー大会・・・バーベキューをして楽しむ
2. わいわい集まろう会[夏]・・・ソフトボールをして楽しむ
3. 夏祭り・・・盆踊りや屋台を出して夏祭りを楽しむ
4. わいわい集まろう会[秋]・・・ソフトボールをして楽しむ
5. 同窓会・・・卒業年度ごとに近況報告等をして、歓談を楽しむ

特に、同窓会においては、本校卒業生全員に通知を出して、不参加の卒業生の近況報告も掲示している。本校卒業生は現時点で約400名で、そのうち毎年70名～80名が参加している。

また、本校教職員のOB/OGにより、余暇活動としての表現活動を活発に行っている。定期的な発表会を開催し、交流を深めている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

特に追跡調査等を行っていない。

本校を転出された多くの先生方は、特別支援教育の分野に携わり、リーダー的役割を担っている。例えば、音楽科教育において、特別支援教育が必要な児童・生徒の指導に関するリーダー的役割を担う人材を多く輩出している。そのメンバーが中心となる研究会が研修機能を担っている。

また、本校主催の学校説明会の講師として招聘し、様々な観点からアドバイスをしてもらっているケースもある。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

教育学部の教員養成科目群（「教育実地研究基礎」「教職実践演習」など）や、大学教員の専門の授業などで、大学教員や大学生・大学院生による授業・活動を展開する場を提供している。

【小学部】

音体の授業において、大学生の表現を鑑賞する活動を定期的に行っている。本物の楽器や生の歌声・演奏に対して、自由に身体反応・即時模倣するなど、身体を通して感情を表現する様子が見られる。

【中学部】

自閉症スペクトラムを対象とした授業づくりについて、大学教員と附属教諭で検討を重ね、いくつかのコンテンツを提示している（指揮者コーナー、ボディーパーカッションなど）。生徒の生活世界と授業を結びつけることのできるような教材開発も行っている。

【高等部】

自閉症スペクトラムを対象とした鑑賞の授業づくりについて、視覚支援の在り方、芸術作品の選択の観点、他の領域への活用など、6年間連携活動を継続している。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域から頼りにされる存在でありたいと考える。本校と地域とのつながりということにおいて、現在次のことを行っている。

1. 特別支援学級等新担当教員研修講師 (三重県教育委員会主催)
2. 公立小学校校内研修会講師 (津市・松阪市等)
3. 三重県特別支援教育研究大会助言 (三重県特別支援教育研究会主催)
4. 津市教育支援委員会委員 (津市教育支援委員会主催)
5. コンサルテーション(教育相談)講師 (公立小中学校)
6. 「三重大学ひと模様」で教員紹介 (毎日新聞社主催)
7. 津市塔世橋郵便局にて本校高等部の美術作品を展示
8. 通学路の清掃活動

他

このように、特別支援学校におけるセンター的機能の他にも様々な分野で地域と関わりをもち、相互にとって、より良い関係を築いていきたい。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

平成15年3月に文部科学省から「今後の特別支援教育の在り方」が発表以来、特に最近が発達障害についての関心が高まる中、本校は、特別支援教育の方法についての研究を進め、隔年で公開研究会を実施している。公開研究会では、県内外から、特に小中学校教員が多く訪れる。その理由には、学校現場でのいわゆる発達障害のある子どもへの支援・指導への関心の高まりがあると考えられる。

このように、研究内容の発信を行う機能と、三重大学附属学校として教育実習事前指導等と教育実習期間を通じて特別支援教育の必要な児童生徒への具体的かつ実践的な指導方法を学生が学ぶことができるよう支援・指導する機能を有すると考える。三重県において、教員養成がされている大学は2校であり、その中でも特別支援教育のコースを持ち、かつ附属の特別支援学校を持って4年間を通して連携しながら学生を教育しているのは三重大学のみである。

大学と連携しながら我々の後輩にあたる次世代の教員を養成するという観点で、30年以上三重県下の教員養成を中心的に行ってきたということからも、教員養成機関として重要な役割を担っている。